

しんじのスパイク

八南小・5

塩野 眞士

初めまして

ぼく しんじのスパイクです

色は絵の具のような黒色で、

金のしゃちほこみたいな

金色のラインが入っているんだ

本当は白色に金色のラインが入っている

スパイクがほしかったしんじ

売り場になくて落ち込んでいた

けれどそのときぼくを見つけてくれた

ぼくはしんじに選ばれたくて

むずむずしていた

そしてしんじはついに

ぼくに手を伸ばしてくれた

「やったあ。これでサッカーできるぞ。」

そこからぼくとしんじは毎日いっしょだった

ボールをけるとき

しんじが味方に向かってポンつとパス

「ヤバイ取られそう。だいじょうぶかな。」

よし パスがうまくいったみたい
次の動きだ いいぞしんじ

しんじが一生けん命走る

だからぼくも

タッタッタッタッタ

ボールがこつちに向かってきた

しんじがトラップをした

「ナイスしんじ。コーチの言葉を思い出せ。」

そのままドリブル

「このままゴールに近づけ、しんじ。」

しんじは相手をかかわして

ドカ

「痛っ。」

シュートだ

でも決まらなかった

よし しんじ もう一度いっしょにやるぞ

二度目のシュート

「さっきは痛かったけど、

今度は痛くないぞ。」

ゴールが決まった

ぼくもしんじもうれしかった
ぼくは土がついてよごれていた

「しんじめっちゃがんばったな。」

家でしんじがぼくをみがいてくれた

ピカピカになった

きれいになって気持ちよくなった

「ぼくも休けいだ。」

次の試合でも

ぼくとしんじで協力して活やくするんだ

そのためにいっぱいボールをけとばした

いっぱい土がついた いっぱい走った

しんじ これからもよろしくな